



## ～ 自他共栄～ NO.4

2024年8月22日

発行責任者 根岸 大智

編集責任者 情 宣 部

### 8.15 終戦の日 岸田首相の式辞と現実

終戦から79年をむかえた8月15日、およそ310万人の戦没者を慰霊する政府主催の「全国戦没者追悼式」が武道館(東京都千代田区)で行なわれ、全国から遺族の代表等およそ4,000人が参列しました。この中で、岸田首相が式辞を述べ、以下のような発言をしました。

「未だ帰還を果たされていない多くのご遺骨のことも、決して忘れません。一日も早くふるさとお迎えできるよう、国の責務として、ご遺骨の収集を集中的に実施してまいります。」



「完全に収集しきれない細かい遺骨がたくさん含まれている。**戦没者の血や肉を吸い込んだ土を、軍事基地をつくるために海へ捨てるのは冒涇であり、国際的な人道問題**」

このように話すのは、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガンマファイヤー」代表の具志堅隆松さん(70)。40年以上に渡り、沖縄戦の戦没者の遺骨を収集し続け、これまで4,000柱を探し出しました。

沖縄本島には激戦地であった南部を中心に、現在も3,000柱近くの遺骨が地中に眠っているとされています。その中には、沖縄の人々や旧日本軍兵士だけでなく、米兵や朝鮮、台湾出身の人も含まれています。そのような土砂を、沖縄県防衛局は名護市辺野古の米軍新基地建設のための埋め立てに使用する計画を進めています。土砂を調達する場所の中には、これまで具志堅さんが遺骨収集を進めていた場所も含まれており、具志堅さんは沖縄県庁前で6日間のハンガーストライキ(断食をして主張を訴える非暴力抵抗運動)を実行する等、反対運動を展開していきました。しかし、県は結果として採掘を許可し、採掘中に遺骨が見つければ作業を中断して収集することで合意しました。しかし、戦後80年近く経って劣化が激しい遺骨が重機などで砕かれてしまえば、探し出すことは容易ではありません。

岸田首相は総理就任以降、毎年全国戦没者追悼式の式辞で遺骨収集を「**国の責務**」として実施すると述べています。しかし、実際は国内の遺骨収集すらまともに進んでいないどころか、国防・国益を最優先し、戦争で亡くなった人が眠る土を海に沈め、戦争をする為の設備をつくらうとしています。私たちは、政府のこうした矛盾した言動に気づくためにも、**過去に起きた事実、今起きている現実、さまざまな事柄に興味・関心を持ち、いち国民としてしっかりと政府の動きをチェックしていきましょう!**

**主権者である私たちがしっかり政治に関わり、平和をつかみ取ろう!!**

JR貨物労組青年部

具志堅さんの取り組みを追ったドキュメンタリー映画「骨を掘る男」  
全国上映中!  
※一部上映終了

